

科目ナンバリング											
授業科目名 <英訳>		睡眠文化論 Studies on Sleep and Society				担当者所属 職名・氏名		アジア・アフリカ地域研究研究科 教授 重田 眞義			
群	統合科学科目群			分野(分類)	その他統合科学			使用言語	日本語		
旧群	A群	単位数	2単位	週コマ数	1コマ	授業形態	講義（対面授業科目）				
開講年度・ 開講期	2024・前期		曜時限	月3		配当学年	全回生	対象学生	全学向		
【授業の概要・目的】											
睡眠文化研究は、人間の行動として「睡眠」を分析し、その「文化」としての側面を研究する新しい学問分野です。この分野は、誰でも必ず眠るという意味で、私たちの日常生活世界への深い関心に根ざしています。また、睡眠文化を研究することは、日常的なあたりまえの営為の大切さを知ること、そして「よりよい眠り」を求めることにつながっています。この講義では、ヒトの睡眠行動の科学的基礎を学んだうえで、私たちの睡眠に関係した行動の全体像と変異の幅を、科学と文化の両面からとらえていきます。そのうえで、「睡眠文化複合」ともよべるような睡眠に関連した多様な文化の特性を具体的に解説していきます。受講者には、既存の専門分野だけでは解き明かせない複合的な現象に対して、多くの分野を活用しながら柔軟にアプローチする京都大学らしい知のありかたを身につけてほしいと思います。											
【到達目標】											
ヒトの睡眠行動に関する科学的な基礎を理解するとともに、複合的な人間の行動に対して、文理融合的な手法でアプローチする例を学ぶことにより、特定の専門分野だけに縛られない知の探求手法を理解する。											
【授業計画と内容】											
1．睡眠文化とは何か：人間はどのようにして眠ってきたか 2．睡眠を科学する（ゲスト：福田一彦・江戸川大学） 3．眠り小物の文化論 4．眠りの設い（しつらい）と「眠り衣」の文化誌 5．日本古典文学の夢の世界を考える（ゲスト：荒木浩・国際日本文化研究センター教授） 6．マンガ文化と睡眠文化（ゲスト：伊藤遊・京都精華大学国際マンガミュージアム研究員） 7．睡眠文化の臨床知（ゲスト：中川晶・奈良学園大学教授） 8．時差と生体リズム（ゲスト：岡村均・京都大学教授） 9．睡眠文化の人類学（ゲスト：豊田由貴夫・立教大学教授） 10．源氏物語の眠りと光（ゲスト：小山恵美・京都工芸繊維大学教授） 11．睡眠科学の文化論（ゲスト：藤本憲司・武庫川女子大学教授） 12．チンパンジーの眠り（ゲスト：座馬耕一郎・京都大学研究員） 13．眠りの比較文明論 14．睡眠文化を学ぼうとする人のために 15．試験日 16．フィードバック											
講師の都合により順番を変更することがあります。確定した日程は初日にお知らせします。											
【履修要件】											
文系、理系を問わずすべての分野の学生諸君の参加を歓迎します。											
【成績評価の方法・観点】											
授業期間中にレポート試験を実施します。各講義の最後に感想と質問を記入した小レポートを提出していただくことがあります。											
睡眠文化論(2)へ続く↓↓↓											

睡眠文化論(2)

[教科書]

高田公理・堀忠雄・重田眞義 『睡眠文化を学ぶ人のために』（世界思想社）ISBN:978-4-7907-1330-2

[参考書等]

（参考書）

吉田集而 『眠りの文化論』（平凡社）ISBN:4-582-48132-9

睡眠文化研究所・吉田集而 『ねむり衣の文化誌－眠りの装いを考える』（冬青社）ISBN:4-88773-006-3

高田公理・睡眠文化研究所 『夢・うつつ・まぼろし 眠りで読み解く心象風景』（インターメディカル）ISBN:4-900828-20-3

[授業外学修（予習・復習）等]

予習は必要ありません。毎回の授業で抱いた疑問点や理解不足と思われる点について、教科書を活用して自学自習するようにしてください。そのうえで、次回の授業で積極的に質問してください。

[その他（オフィスアワー等）]

日本の睡眠文化の大きな特徴である「授業中の睡眠」はあまり評価されません。